

昭和 30 年代までは山の姿は今とはだいぶ違っていました。周辺の山は、尾根筋には松が茂り、山の斜面は檜・クヌギの薪炭材が 7、8 年ごとに適当な大きさになると伐採されて、所謂明るい里山を形作っていました。やがてマツクイムシの被害が広がり尾根の松は全く姿を消し、ナラ・クヌギの類は化石燃料の普及で薪炭の需要がなくなり放置されました。

そのナラの樹が大きく育って老齢化、この大きなナラの樹がカシノナガクイムシにとっては絶好の繁殖場なのだそうです。

周囲の山は、自然の力、人為或いは虫害によって徐々に姿を変えているのです。

話は一転、里山と最近機運の高まっている持続可能な社会について考えてみましょう。

昨今は、周囲の山から資源を得て、生活の大きな部分を依存していた里山の時代とは全く違い、周囲の山との関係は大変希薄なものとなりました。更には山から受ける災害を防ぐために山との間に擁壁が作られて益々縁遠いものとなり始めています。

持続可能な社会を作ることを日常の生活の場で考えると、石油・天然ガスやそれによる製品をなるべく使わないようにして、地球環境が壊れてしまうのを防ごうということですが、今の生活環境ではなかなか実践したり実感するのは難しい。何故なら市場にあるものを買って使う他力本願の生活になっているからです。

昭和の始めまであった里山の生活はまさに持続可能な社会の一つの典型です。久木の奥にある自然公園は、昭和 16 年までその里山の生活があった場所。この公園を単に自然を保護するというだけでなく、特に子供たちに、持続可能な社会や生活を考える教育の場として、里山の生活環境を復活させるのが良いのではないかと考えています。

鈴木 為 之 (山の根在住)

編集後記

振り返ると、バブル期には「一億総中流」と云われ日本人の大半が中流層だという意識があった時代である。現在は格差社会が進み、その様な言葉は霧散した。

多くの学者が日本の経済も社会も劣化が進んでいるという。従って現在は経済でも、社会でも現状を打破する行動を求められているのだろう。地域にあっては住みやすい地域を求めて、こんな時代だから挑戦をしなければならないのだろうと思うこの頃である。

事務局長 石 井 達 郎

久木小学校区住民自治協議会・広報誌

住民協ひろば

第 44 号 (準備会から通算第 65 号)

発行日 令和 2 年 12 月 5 日

発行所 逗子市久木 2-1-1

久木小学校区住民自治協議会

発行人 田倉 由男

・・・今年最後の久木朝市のご案内・・・

新拠点部会の企画発案によって、地域の活性化を図ることを目的に久木会館前で「家庭菜園愛好者交流頒布会」が本年 7 月よりスタートした。

コロナ禍を勘案し、密を回避して人が集い、交流する屋外での事業として、家庭菜園愛好者、なす、キュウリ、トマト等の野菜を通して新しいコミュニティが生まれ、拡大することを狙ったものだが、その後手作りのケーキ、手作りの裁縫品等の品揃えが増えて、更にこども部会が人数限定ながら屋外での食事を提供する様になった。

今では「久木朝市」として様々な交流が徐々に生まれている。コロナ禍により多くのことが制約を受けざるをえないが、工夫をしながら新たなものを創造するチャンスでもある。

人が集まれば、何かが生まれる、集まり方の工夫をしながら模索することの大切さを感じる。

今年最後の久木朝市は 12 月 26 日 (土) 久木会館前で 10 時 30 分より開催。

今回は白菜、ホウレンソウ、ブロッコリー等の手作り冬野菜、蜂ミツ、

手作りケーキ、手作りの裁縫品等が並びます。

また、新たに家庭菜園での野菜等の販売希望者、及び趣味で作られている

物があれば、久木朝市に是非ご出品下さい。

事務局長 石 井 達 郎

令和2年11月度役員会

令和2年11月7日(土) 13:30~15:35 久木会館で19名(うち役員13名)が参加して開催さ

れました。主な議題は以下の通りです。

(1) 事務局からの報告事項

① 神奈川県横須賀土木事務所：急傾斜地調査結果について(レッドゾーン指定)
具体的に指定される、レッドゾーンはウェブサイトを確認する様に説明されているがゾーンの確認方法が不明確であるので、事務局より県土木に確認することとなった。

また、各自治会より住民に説明をするに際し、疑義があれば事務局に連絡する様要請された。

② 住民自治協議会(10/23実施)報告
地域住民として、気づいた危険な傾斜地など、危険な場所があれば、都市整備課に連絡してもらいたいとの依頼が行政よりあった旨報告された。

久木住民協としては、減災部会ですでに危険箇所を示した地図が作成されており、防災安全課に提示しているので、都市整備課に新たに提示する必要があるのかを、減災部会長が確認することとなった。

(本件改めて11月27日に開催された連絡会で都市整備課から説明と要請があり、住民協として住民が得ている情報を元に、住民目線で改めてチェックする予定とした。)

(2) 審議事項

各部長及び事業代表から現況報告及び全体への協力要請事項

① 久木会館：故障していた空調に関し、市から予算取りし、修理する旨連絡があった。

既に市民協働課と業者が調査に来た。業者見積もり、予算計上等終了次第、施工の運びとなる予定。

③ まちなみデザイン返子賞の件

資料の説明があり、事務局より山の根の「トーテムポール広場」を申請する方向で、龍村さんに検討するよう要請された、

④ 桐ヶ谷市長との懇談会の件

11月14日(土)14:00~16:00、久木会館にて、桐ヶ谷市長を招いて懇談会を開催する旨報告された、議題は「返子のwithコロナ対応について」を中心に、最近の返子への転居の動き、他とのことである。参加人数は久木小学校区役員を対象に20名程度に制限する予定、尚多少余裕があるので、町会、民生委員などに声をかけることになった。

⑤ 久木朝市の件(11月3日実施)

今回は家庭菜園の農作物だけでなく、手芸品お菓子など新しい出店者も加え、12の出店があった。開催時間は10:30からと前回より遅めとしたが、延べ80名程度の来客があった。尚、朝市はシリーズ化して継続して行く予定で、今後の開催については次回の新拠点部会で協議するとの由。(12月26日に決定した。)

② 「住民協ひろば特別号」について

配布資料に基づいて、最終段階の原稿内容が協議され、下記項目が確認された。

◆巻頭の会長記の内容につき、住民協と各自治会との関係に誤解を招く様な表現があるので会長が見なおす。

◆広告のページは久木会館を削除し、広告料

1万円のFLAGの掲載紙面を広げる方向でアレンジし直す。

◆修正された最終原稿を編集委員にデータを送付し、再確認する。

◆スケジュール

締め切り：大久保印刷入稿/11月12日 印刷仕上り：朝日新聞搬入/11月25日

配布：12月1日(広報ずしと同時配布)

③その他

◆廃棄物処理計画について

配布資料に基づいて、新たな返子市の一般廃棄物処理基本計画、また災害廃棄物処理計画の内容が説明された。

◆役員動向の件

会長より、ハイランド地区新自治会長/海野さんの住民協副会長就任、及び前副会長/山崎さんの理事就任に就き諮問があり、本役員会にて承認された。

◆次期役員の内

田倉会長より、今期をもって会長を辞任するとの意思表示があり、今後事務局を中心に次期役員の内案をしてゆくことになった。

◆久木小学校区減災地図の件

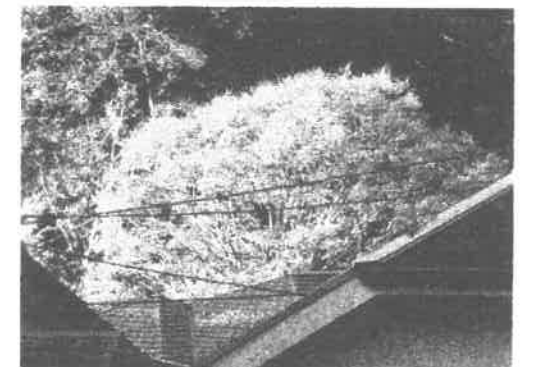
拡大した久木小学校区全体減災地図が久木会館に掲示される旨説明があった。

トピックス

晩秋を迎えての雑感：紅葉、檜枯れ、里山、自然公園

南に開けた奥深い谷戸に住む私の近くの屋敷に、推定百年を超えるケヤキの大木があり、この秋は鮮やかなこげ茶色の黄葉に包まれています。幸い今年には当地に大きな台風の襲来がなかったこと、そして記録的な夏の暑さが秋が深まり始める10月に入ると、一転寒さすら感じる涼しさとなり特に夜間の気温の低下が鮮やかな紅葉を齎したのでしょう。

もう一つ、11月末に至り、谷戸の行きどまりの山にある、ヌルデの樹の大木が紅色に包まれました。将に錦秋といえる季節感です。(写真は11月11日撮影のケヤキの黄葉)



一方、周囲の山を見上げると、色づき始めた木々の中に、立ち枯れた樹木が目立ちます。「檜枯れ」といわれ、コナラやミズナラ、マテバシイなどのブナ科の広葉樹の幹に、カシノナガキクイムシという5ミリ程度の小さなクイムシが入り込み、この虫が持ち込む「ナラ菌」という微生物が増殖して、樹の水や栄養分を通す導管をふさいでしまうので急激に葉がしおれて立ち枯れるとのこと。今、「檜枯れ」は全国的な大きな問題となっています。